



橋本 聖

勤務先：

北海道開発局
札幌開発建設部
深川道路事務所
第1工事課

〒074-1271 深川市音江町字広里 306

TEL 0164-25-2980

FAX 0164-25-1986

E-mail: hashimoto-h22aa@hkd.mlit.go.jp

専門：建設部門

○自己紹介兼業務経歴

札幌市で生まれ父親の仕事上、高校卒業まで道内各地で過ごしました。父親は国鉄の保線区に勤めていたことから幼少の頃より『土木』に親しんでいたと思います。大学時代はバブル景気のためバイトに困ることなく、小金を稼いでは寮仲間と酒を飲んだりパチンコをする毎日でした。4年の時に中国杭州市にある某大学で数カ月実習する機会がありまして、中国人学生マジメな授業態度と前向きな考え方に感化されました。以来、私自身も心を入れ替えて(?)仕事遊びに励み、今日に至るまで10数回渡中する『酒好きの中国マニア』になってしまいました。平成6年に北海道開発局に入局し、3年間、函館新道の工事担当(主に改良工事)になりました。その後、建設省土木研究所へ出向し5年間、主に軟弱地盤対策のコスト縮減に関する研究や、補強土壁工法のマニュアル改訂作業を行いました。ここで物書き(論文)やプレゼンテーションのノウハウを学ぶと同時に、土工指針や各種マニュアルの改訂作業に携わる経験ができたことが、今の業務でも非常に役に立っています。平成14年4月に土研から札幌開発建設部へ異動になって現在3年目ですが、1年目は道央圏連絡道路(主に美原道路)の計画担当になり、軟弱地盤対策等の実施設計業務を担当しました。現在は深川留萌道の広報活動や一般国道(トンネル)の実施設計等、幅広い業務を担当しております。

○受験の動機

ある日、N経コンストラクション表紙の次のページに『ねっとわ〜く』という読者からの投稿欄を読んだときに、『発注者の技術力の低下が著しくコンサルタント業務に支障をきたす事が多い』という記事がありました。この記事が自分に言われたモノだと(勝手に)思いこみ、ヤル気がある(?)発注者がいると異議申し立てするために受験しました。

○受験体験談

試験対策は4カ月前から準備を始め、通信講座と技術士関連のホームページを活用しました。適性科目は過去問である程度解くことができたので、以後全く勉強しませんでした。しかし、本番の自己採点では半分くらいしか解けなかったもので、勉強をおろそかにしたツケが回ったと思いました。専門科目は電力土木や鉄道といった業務に関連しない科目は最初から捨てて、自分が関わっている分野+αだけ集中して勉強しました。基礎科目はすべて技術士関連のホームページ(以降、HP)を活用しました。その中でも試験対策に大変役に立ったHP(<http://apec.fc2web.com/pe/>)がありまして、世の中にはとても良心的な人がいるものだと感謝しています。専門科目、基礎科目を受験したイメージは、過去問と通信講座の内容ですべてを網羅できるものではなく、日々の業務や生活の中で身に付けた知識の積み重ねが非常に重要だと認識しました。

○今後に向けて

私が役所に入ったときは『いかに受注者と共同でいいモノを作るか』という話を先輩諸氏から教わってきましたが、昨今は『今後、発注者は土木構造物を買う』と言われております。だからといって発注者に技術力は必要ないとはいえず、むしろ多様化した環境だからこそ、専門的な知識と幅広い視野を持った発注者が求められると考えています。技術士は単に技術の専門家ではなく高い理想と倫理観を持った技術者集団ですので、その一員になれるよう日々の業務の中で研鑽を積みたいと思います。業務等で接した時はよろしくお願いします。